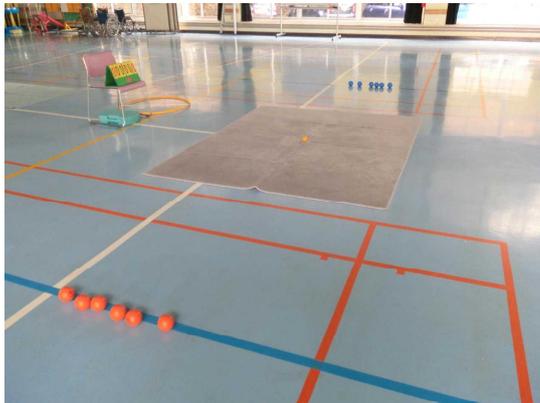


22 ペタンク(拓桃ルール)

I 競技の特性

目標球に向かってボールを投げたり，転がしたり，他のボールに当てたりして，相手より近づけることで得点を競うスポーツである。運動量は少ないものの，障害の程度や性別，年齢の違いにあまり影響されないため，みんなでプレイできるスポーツの一つである。

拓桃ルールでは，①チームを意識したコート作り，②得点の分かりやすさ，③調整力の向上を，ルール変更の柱とした。



II 施設・用具

1.施設
インドアペタンクの用具を使用する場合には，室内が望ましい。

2.用具
(1)ボール・ビュット(図1)
専用のボールを使用することが望ましい。各チーム6球ずつでゲームを行う。ビュットとは目標球のことであり，ボールよりも小さなサイズである。
なお，専用のボールやビュットがない場合には，ゲートボールのボールなどで代用することも可能である。

(2)フラフープ(図2)
得点を計算するとき使用するもの。円(フラフープ)の中心が分かるようにひもを張って目印をつけるなどの準備をしておく。

(3)得点板
(4)絨毯
室内では転がりやすいため，絨毯を敷くことで，スピードを軽減することができる。



図1 ボールとビュット



図2 フラフープ

III 競技の方法

1.人数（チームの編成等）

チームのボールが6球ずつのため、各チーム1～3名が望ましい。団体戦、個人戦どちらでも行える。

2.競技の進め方

- (1) 1ゲーム2セットマッチで行い、合計得点で勝敗を決定する。
- (2) 各チームの代表がじゃんけんを行い、勝ったチームが先攻・後攻いずれかを選択する(2セット目はじゃんけんをせず、1セット目と先攻・後攻を逆にする)。
- (3) 各チームはゲーム開始前に、投てきの順番を決める。
- (4) 審判がビュットを絨毯の中心に置き、ゲームの開始を告げる。
- (5) 先攻チームの一人目が2球続けて投げる。続いて後攻チームの一人目が2球続けて投げるといように交互に投げ合う。
- (6) 全員の投てきが終わったところで1セットが終了となり、得点を計測する。

3.投てきの方法(図3)

投てきラインからボールを投げる。車椅子使用者は車椅子の前輪がラインから出ないようにする。また勾配具(ランプス)や自作補助具を使用する場合は、その用具の先端がラインを越えないようにセッティングする。

4.得点(図4)

全員が投げ終えた時点で、審判がフラフープを使用して得点を計測する。ビュット(目標物)にフラフープの中心を合わせて置き、その中にあるボールの数がそれぞれのチームの得点となる。

フラフープ内だけでなく、フラフープに触れているボールも得点となる。

5.その他のルール

- (1) 投げたボールが絨毯から出て、あきらかに得点にならない場合には、審判の判断で邪魔にならない場所へ移動してもかまわない。
- (2) 投げたボールがビュットに当たり、ビュットが移動してもそのままにしてゲームを続ける。ただし、ビュットが絨毯から出た場合には、中心に戻す。
- (3) 対戦するチームの人数が同じでない場合には、人数の多いチームに合わせる。
- (4) その他、プレイヤーの実態により配慮が必要な場合は、チーム間で協議をして決定する。

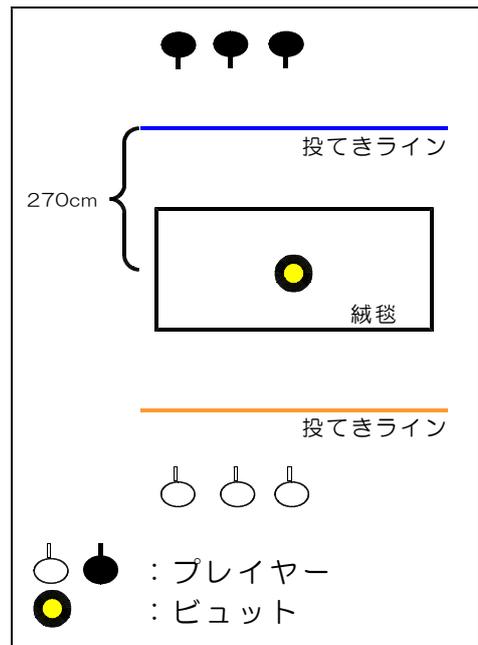


図3-1 投げ方



図3-2 補助具を用いた投げ方

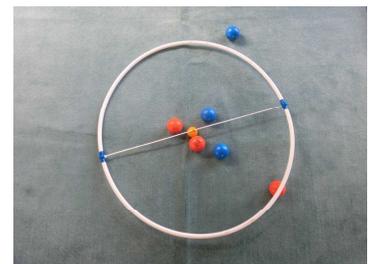


図4 得点の計測

IV その他

1.工夫点とその意図

(1)チームを意識したコート作り

各チームが向かい合うようなコートを設定することで、自チームを意識することができる。

(2)得点の分かりやすさ

ペタンの正式なルールでは「相手チームの1番近いボールよりもビュットに近いボールの数が獲得した得点」になるが、より分かりやすくするためにフラフープを使った得点計算をすることとした。

(3)プレイヤーが2球続けて投げる

1投目の結果から投げる方向や強弱を考えて2投目で調整する力を向上させることをねらいとしている。1投ずつチーム内で投げる順番を変えると、投げた感覚を忘れてしまい、2投目の調整がしにくくなると考え、続けて投げるというルールを設定した。

2.ペタンクとポッチャの正式ルール

公益社団法人日本ペタンク・ブル協会 <http://fjpb.web.fc2.com/>

3.補助具(図5)

介助者が競技者の指示のもとランプスを上下左右に動かし位置を決め、ボールを転がすのに使用します。

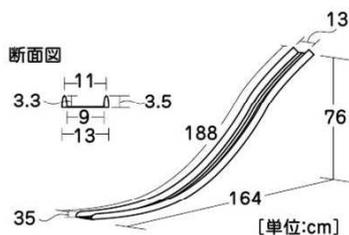


図5-1 ランプス



図5-2 雨樋, ホース



図5-3 自作補助具